

# ニタイ・ト

からのお便り

第4号

☎487-2332



北海道集治監釧路分監本館とともに旧塘路駅通所も開館し、標茶の歴史を学べる空間が生まれました。5月連休中は、地元の方も含め多くの方にご観覧いただきました。ありがとうございます。(坪)



## ニタイ・ト1周年特別記念講演

### 日本列島 北から南の考古学

昨年7月1日に開館したニタイ・トが、間もなく1周年を迎えます。これを記念し、全国の遺跡や博物館に精通した標茶町博物館運営審議会委員長の西幸隆氏による特別記念講演を行います。本講演では特に有田焼や伊万里焼など焼き物の歴史についても講話されることから、陶芸をご趣味にされている方も楽しめます。

参加は無料。事前申し込みは必要ありませんので、直接、博物館へご来場ください。



■日時 / 6月30日(日)、午後1～3時

■場所 / 1階多目的室



塘路で縄文時代の墓壇調査を行う西幸隆氏

## くまがた

標茶近世・近代人物誌

近代日本馬術の創始者

遊佐 幸平

（後編）

標茶に生きた人々の中には、伝記のような形で記録が残され、歴史にその名を遺した方がいます。そんな人々の人生の物語をご紹介します。

(前回までのあらまし)

遊佐幸平は、1932～1933年(昭和7～8年)に軍馬補充部川上支部の第12代支部長として勤務した軍人であり、陸軍騎兵隊に所属した馬術家です。1883年(明治16年)、宮城県玉造郡鳴子村(現鳴子町)に生まれた遊佐は陸軍士官学校を卒業。日露戦争従軍後、馬術研究のために世界各地を巡り調査研究を深めました。1932年(昭和7年)第10回オリンピックに馬術競技の日本代表監督として臨むと、西竹一陸軍中尉が大障害飛越競技で優勝。代表監督として金メダルをもたらした遊佐は、同時期に標茶の軍馬補充部川上支部へ支部長として赴任。約1年を標茶で過ごしました。陸軍少将となり1937年(昭和12年)に軍馬補充部本部長となった後、1942年(昭和17年)まで満州国馬政局長として手腕を振るいました。



「遊佐馬術」の復刻版

この時期、遊佐は自らの馬術論を「遊佐馬術」と題した書籍にまとめます。これは東京馬術研究会より講演を依頼された遊佐が、自らの馬術において大きく参考としたイギリス生まれの馬術家フィリス氏の著作を紹介するとともに自らの経験も盛り込み、25回にわたって講話した内容を編集したものです。この中で遊佐は真の馬術をやるにはサラブレッド種が最優秀であるとし、サラブレッドの創造についても説明しています。その内容の一部をご紹介します。今日競走馬として知られるサラブレッド種は、18世紀前後にアラブ種(馬の品種の一つ)の中でも大型であったピヤリイ・チュルク(現在ではバイアリー・タークと呼ばれる)、ダーレー・アラビアン、ゴドルフィン・ア

## 第2回 噂の博物館台帳とは…!?

博物館を訪れた観覧者から「このはく製はいつの時代のものなのか」という質問を受けることが度々あります。標茶町博物館のはく製の多くは、交通事故などで死んだ動物を引き取りはく製にするという経緯のものが多いので、このような疑問にははく製を作った当時の台帳を見ると答えることができます。今回は博物館台帳について少し触れたいと思います。



植物標本の整理

博物館の業務の一つに「受け入れ資料の登録」というものがあります。これは寄贈されたものや調査研究の成果物などを、収蔵資料として博物館にある台帳に登録する作業です。台帳には資料に関することが細かく書いてあるので、資料の名前が分からない時などに台帳から名前を知ることができます。また、利用者が見たい資料が収蔵庫に保管されている場合も台帳から資料番号を調べ、収蔵庫から探し出すことができます。(なお台帳は一般の方は見ることはできません) 登録が終わっている資料も定期的に状態をチェックする必要があります。特に自然関係の資料ははく製や昆虫標本など有機物が多いので、カビや虫食いなどの被害がないかどうか確認しながら標本の整理を行っていきます。

今まで台帳は紙媒体で保管されてきましたが、資料の索引が容易であることなどからデータ化する博物館も多いようです。標茶町博物館でも台帳をデータ化するための作業が始まりつつあります。

遊佐は太平洋戦争後も馬術の発展に尽くし、オリンピック選手候補の教育や馬術関連本を出版。1956年(昭和31年)の第16回ストックホルム・オリンピック大会まで日本の馬術監督を務め、1966年(昭和41年)11月25日、83歳にて逝去。「馬術の神様」と称された遊佐は、騎兵学校の勤務時代に、軍人、民間分け隔てなく馬術指導を行い、一日たりとも休暇を取らなかったと伝えられています。

遊佐が標茶の川上支部で執務した本館2階の支部長室は、現在美しく改装され一般に公開されています。

ラビアン(遊佐は第一世祖馬と称した)がその基礎となり、近親交配を行った結果サラブレッド種が生まれていきました。今日全てのサラブレッド種の祖先はこの3頭につながります。その後ヘロッド(キング・ヘロッド)、エクリプス、マツチエムという優れた次世代馬が現れ、サラブレッド種が確立していきました(遊佐は第二世祖馬と称した)。遊佐はサラブレッド種の元となったアラブ種と比較し、体格や骨量に秀で、速度や持久力、運動性も極めて良いが、性格が荒い馬も多く感受性が鋭敏なため、飼養管理が難しい天才馬ともいえるべき馬になったと評されています。

そのほかにも自身の経験として、馬を最初に調教する技術の項では、北海道新冠の近くに住むアイヌの方は調教が非常に巧みだったことや、軍馬補充部に勤務した経験(おそらく標茶での経験と思われる)から、北海道の放牧馬は通年放牧し平均して成長が良いこと、若馬の成長にはかなり気を配っていたことなども紹介しています。なお若馬の成長について原著では「番茶も出花の年頃になってふっくら肉が付いてくると、どんな娘でも見られるのと同様、馬も大体5歳になると、どんな馬でも見られるものがある」と遊佐独特のユーモアを交えて締めくくっています。馬への調教については非常に詳細で、どのようにすれば馬の癖を直せるのか、馬の習性を把握し、こちらの意図をどのように馬に理解させるかなど、失敗談も踏まえ詳しく説明しています。



本館前での記念写真(前列中央が遊佐幸平)

# 女性活動の合いこば

- 一、手と心をつなぎ、明るく豊かな町をつくりましょう。
- 一、互いに人格を認めあい、奉仕の心を養いましょう。
- 一、からだをきたえ、人生に希望と誇りをもちましょう。
- 一、お年寄りを敬い、子供を愛し、円満な家庭をつくりましょう。
- 一、力を合わせて、薫り高い郷土の文化をつくりましょう。

標茶町女性団体連絡協議会機関紙



第189号 令和元年6月1日

標茶町女性団体連絡協議会

発行責任者 会長 千葉 博子 標女連広報委員会

## 令和元年度 役員体制

役 職		氏 名
会 長		千葉 博子
副会長	広 報 委 員 長	三枝由美子
	総 務 委 員 長	山口 紀子
	研 修 委 員 長	塩原トシ子
	男女平等参画委員長	北原千津子
理 事	広 報 副 委 員 長	田中 一美
	総 務 副 委 員 長	若木みどり
	研 修 副 委 員 長	外川ゆかり
	男女平等参画副委員長	鳴川 純子
監 査		油谷 栄子
		東理由美子
会 計		長尾 初子
		島田まさ子
事務局	事 務 局 長	江口サチ子
	事 務 局 員	照井せい子

## 令和元年度 理事

町内会・地域会	氏 名	氏 名
常 盤	野呂ひとみ	大越 郷子
川 上	野崎由美子	森山 直子
川上公住	平間 安子	澤田 紀子
開 運	松井ユキ子	江端美智子
旭	三浦真理子	奥山 久美
富 士	柳田 久子	熊谷 春野
平 和	村山美由紀	山本真美子
桜	鈴木 裕美	吉田 洋子
麻 生	林 知恵	児玉 香
虹 別	鳴川 純子	

## 令和元年度の活動を皆さんとともに

標女連会長 千葉 博子  
 新緑が目にしみる、一年で一番快い季節となりました。さて、元号が令和となり、第1回理事会を終え、新しい町内会役員さんも各部会に所属し、今年一年の行事計画を練りました。

「全道女性大会」への参加や「男女平等参画集会」「女性のつどい」のほかに「子どもの夢を育てるまつり」の出店など、役員一同、力を合わせて行っていきたいと思っております。特に全道女性大会は弟子屈町で開催されることもあり、皆様にご協力をお願いするところもあるかと思いますが、その時はよろしく願います。

## 個人加入を受け付けております

以前は、町内会・地域会女性部のみが加入対象でしたが、現在は個人加入もできるようになっていきます。会費はかかりませんので、どうぞお気軽に加入してください。

■申し込み/千葉 博子 (☎4851-3800)、江口サチ子 (☎4851-1051)

## 会の動き

- 5月8日：釧女連総会
- 5月22日：釧路地区男女平等参画総会
- 予 定
- 7月15日：標茶町戦争犠牲者追悼式
- 7月28日：子どもの夢を育てるまつり
- 9月2～3日：全道女性大会(弟子屈町)